

見及たり、長岡の城下より此新潟迄十六里を、四百石積程の川舟、常に一日づゝに上下す、誠に運漕に便利なる事も、海内又かゝる川なし、其大なる事日本第一なるに、其名高からざるは、北陸避遠の地にありて、殊に其川平穩にて奇ならざるゆゑなるべし、余、新潟の町より又小船をかりて、芝田の木崎といふ所迄、五里が間を此川の入江々々を傳ひて乘しに、其間廣き所は二里に餘る所もあり、狭く入込所は纔に二三十間の所もあり、是は本川筋にあらざるゆゑなり、流れ甚靜にして流れざるが如し、此日殊に晴天にて、兩岸の景色うるはしく、入江々々には蓮の莖甚だ多し、夏月には水面一様の花にて、見事なる事いふばかりなしとぞ、新潟の町より舟を浮め荷華を賞し、又は納涼など甚繁華といふ、舟中より四方を見渡すに、西南より東北へ六七十里を見渡して山なし、西北には二十五里の所に佐渡山見ゆ、東方に奥州會津の山見ゆる。

〔越遊行囊抄〕^五 犀川 大河ナリ、船渡ナリ、凡川幅一町餘、川ノ兩岸ニ木ヲ立、繩ヲハヘテ、クリ船ニスルナリ、人二三人舡ニテクルニ、三人鞆ニテ棹ヲサス、時ニヨリ一二人トテ渡ス事モアリ、一犀川水ノ出タル時ハ、右ノ方ヨリ小市ト云所ヘマハリテ、船渡ヲシテ、日ヶ野ヘ出ル路アリ、
〔越後名寄川〕^二 阿賀川

水上ハ、下野國日光山ノ當リヨリ流レ出テ、奥州ヲ歷、津川ヲ過、山間ヲ流レ、蒲原郡ノ内ヲ通り、近年出來シ松ヶ崎村ノ新川口ニテ海ニ入、山中ハ難所トスル所數多有ケレドモ、津川迄ノ船ノ運送自由好シ、炭薪、松杉ノ挽板、材木等、毎年積下シ、戻リ舟ニ、鹽魚、脯ノ類、其外賣買物積行也、新川口ノ出來ザル昔ハ、加地川ト落合、大佛村ノ傍ヲ流レ、新潟ノ向ヒ當リニテ信濃川ト合テ、新潟ノ港ニ到リシニ、今ハ大ニ異レリ、

〔諸州めぐり〕^一 福知山に著く、山上に城あり、城下町ひろからず、朽木伊豫守殿の居城也。大河其東北に流る、川舟おほし、是より舟にのりて丹後の由良に下るといふ、此河は三戸野嶺より西北の